

夢の自作スポーツカー

高知市の男性が約二十年にわたる二輪と四輪のレーサー経験を生かして自作した小型スポーツカーの発表会が十三日、長岡郡大豊町立川上名の「モーターランドたぢかわ」で行われた。

高知市の
青木さん

レーサー経験生かし

同市比島町三丁目、自動車整備会社社長、青木健一郎さん(五四)。自作車は「キムリック エーワン」と名付けられた。子供のころから自分で車をつくるのが夢だった青木さんは、市販の軽自動車のエンジンを改良した以外は、ほぼすべての部品を自作した。

「キムリック」は一人乗りで、繊維強化プラスチック(FRP)製ボディは赤色で統一。クラクションやウインカーもある本格的なもので、運転席には回転計や水温計が並ぶ。四速シフトで後輪が駆動する仕組みで、最高速

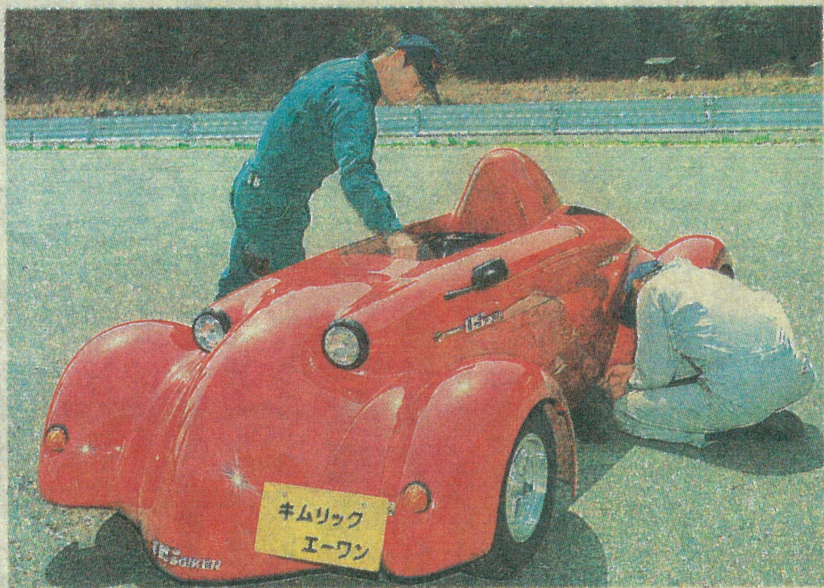
大豊町

発表会で走り披露

度は二百五キロ。青木さんが普段乗っているドイツ製の三輪車を参考に丸っこい個性的なデザインに仕上げた。

ネーミングの由来は、青木さんの好きな猫の種類と青木さんのイニシャル、一号車という意味などから付けたという。

発表会にはカー雑誌の関係者らが集まり、青木さんはエンジンやラジエーター部分を見せたり、資料を配布して性能や製造中の苦労などを説明。その後、大きな音を響かせながらコースを周回し、自作車の魅力をアピールした。



青木さんが長年の夢をかなえ、自作した小型スポーツカー「キムリック エーワン」
(大豊町のモーターランドたぢかわ)

青木さんはキムリックを公道でも乗れるよう近く運輸省に認可申請するとともに、自作車メーカーを立ち上げる予定。「既に二人乗りの新車を



地域わいど

城下町のた
る鳥取真倉吉

さ
南